

令和6年度 関東農政局国営土地改良事業管理委員会(事後評価)

技術検討会(第2回) 議 事 録

日時: 令和6年6月 27 日(木) 15:45～17:05

場所: 関東農政局防災対策室1・2

〔技術検討会の議事概要〕

【議事】

澤 田 委 員) 荒川中部地区の総便益費は 2.7 であるが、これに比べて大井川用水地区は 1.44 となっている。これをどう分析するのか。荒川中部の結果が良すぎるのでしょうか。大きな事業費をかけて実施した事業の効果として 1.44 はどのようにみているのでしょうか。

事 務 局) 荒川中部地区と比べると 1.44 という数字が小さいような印象を持たれるかと思いますが、計画時点ではここまでの数字は出ておりませんでしたので、これに比べれば、事業完了後より多くの効果が発現し、その結果が 1.44 と算出されていることから一定の効果が発現していると認識している。

澤 田 委 員) 荒川中部地区の方が意味「特別」という、そういう認識なんではないか
ね。わかりました。
せっかく農業用水の安定供給という整備をしたのに離農者がおり、農家数
が減少しているこれはどう分析したらいいのでしょうか。

事 務 局) 全体の農家数が減少しているのは確かですが、農業法人や営農組合が
組織されている動きもありますので、農家数の減少がそのまま担い手の減少
となっているわけではないと考えております。

澤 田 委 員) 荒川中部地区は、深谷市長が中心となって農業振興に取り組んでおり、埼
玉県では県知事は農業に力を入れていると宣言し、実際行動しているの
を見ている。
例えば担い手の育成も市町村や県が本当に力を入れなければならないこ
とだと考えられるので、関係機関の連携というのが非常に大切なのではない
かと思う。
歴史的な農業地帯を未来に向けて発展させていくためには、発電、みどり
といった面も大切だが、農業人口が減ってしまうと本末転倒になるので、広
域自治体と基礎自治体の本気になって取り組まなければならないと感じてい
る。

次回提示予定の関係機関の意見をみてもっと頑張ってもらいたいと思

う。

大井川用水地区でも荒川中部地区のように国と関係市町村と県の連携協議といったような取組がありますか。

事務局) ご紹介したとおり営農の組織として大井川用水地区営農推進会議という組織があり、各関係機関で組織され、地域営農推進への支援を行っています。

事業計画時点、事業実施中の段階では事業所、土地改良調査管理事務所と密に連絡をとりながらやっていく仕組みになっており、完了後もそれが切れるわけではなく、こういった事後評価のタイミング等で必要な施策があればそれを提供していくようなサポートの仕方となっています。

澤田委員) 大井川用水地区は関係市町が9市町もありますので、農政局がまとめて引っ張っていってもらえるといいと思います。

寺田水利整備課長) 補足をさせてください。荒川中部地区と大井川用水地区の効果の違いについては、荒川中部地区の説明の中で、総費用は効率的なシステムになっているので安く抑えられているという話をさせていただきました。また、効果については、荒川中部地区は畑が中心となり、野菜や花きは単価が高いので作物生産効果が出やすい。一方大井川用水地区は水稻が中心となっており、米価は野菜や花きに比べて上がっていないという状況から効果が低めに出るという現状があります。

営農振興に力を入れていかなければならないという澤田委員のご指摘はまさにそのとおりかと思います。大井川用水地区営農推進会議も今でも集まって今後どう農業振興を図っていくかということを検討しながら活動しておりますので、我々もそういった活動を見つつ、また、関連事業もすべてが終わっているわけではありませんので、関連事業を推進する立場からも農政局として積極的に関わって参りたいと考えています。

西脇委員) 本事業の重要性も確認できました。モニタリングの結果でもきちんと魚の遡上、植物のタコノアシも生育が観測されており、移植もきちんと現場を見極めて行われたということで、正しい取り組みだと思いました。

工事の期間がH29年まであって、モニタリング調査は施行期間であったH21、22年に実施されているんだと思うのですが、事業期間の中でこれよりも後に調査を実施していれば教えていただきたい。

また、景観への配慮ということで、栃山親水公園の桜に関しては、工事の実施にあたって桜を守る会と調整しながらという、この工事はどの工事にあたるのかを教えていただきたい。

事務局) 大井川用水地区においては、資料にお示した、施工前、施工中、竣工後のタイミング以外ではモニタリング調査は行っておりません。それ以降は未実施です。

枋山頭首工はもともとあった堰よりも下流に位置をずらすような、大きな改築となり、整備後の護岸も桜を植えて良好な景観を維持するべく、桜に映えるよう巻上機室の屋根の色等について調整しながら決めたと聞いています。

平井委員) 思ったよりも活発に活動されていると感じました。2点ほど教えてください。

評価基礎資料の 87 ページにあるニホンアカガエルの這い上がりスロープは使われているのでしょうか。実際にカエルが活用できているのかなと思いました。

評価結果書8ページの地域の農業の担い手の育成の点です。連携や協同というのが重要になってくると思うが、特に学校と関わるのが大事だと思いました。

教育の場では起業家精神の育成が大切と言われている中で、基礎資料の 81 ページに記載されている地域学習の場の提供のところで重要になってくると思われます。ここの書きぶりは目的を視察と学習で分けて書いたほうが分かりやすいのではないかと思います。学校関係では農業高校さんも何回か参加しているようですが、来る年と来ない年があるので、地域の若い世代を育成していくという点ではそこを強調してもいいと感じたところです。

事務局) ニホンアカガエルは雑木林を生活圏としていて、産卵の時期になると水場に来て産卵、繁殖するような生態となり、這い上がりスロープも産卵時期だけの活用になると考えられます。雑木林と水辺の往復の際、水路に落ちてしまった場合這い上げられるようにするスロープであり、使われていると聞いています。

平井委員) 観測用のカメラ等を設置して、這い上がっている様子の写真等がとれれば、確認している裏付けになると思う。

事務局) 追加の調査ができるか検討したが、ニホンアカガエルの繁殖期は早春であり、時期的に実施できませんでした。

堀田委員) 水稻地帯なのでなかなか難しい面はあるが、穀物の価格も国際的に上昇しているので、飼料米も今後注目されると思われれます。認定農業法人数も増加し、水田地帯でのニーズに沿った生産が進んでいくといいと感じました。

石井委員長) 農家の減少というのは、その分規模拡大でカバーされているわけで 水田水稻作というのは規模が何より重要で、より経営力の強い農家に育成されつ

つあるというように見られると思いました。

地域の活性化とか農家が減ってどうするんだという話が出てくるが、それに対して地域用水というものがあり、どこまで効果があったかははっきりとはわかりませんが、多面的機能支払制度の活動に取り組まれている率が高くなっているのは恐らく何か関係があると思われます。冬でも地域に流れている水路であることから、保全活動のきっかけになっているようなこともあるかもしれないので、うまく回っているかなと思ったところです。

レタスやいちごの栽培が増えていると思われますが、その作物生産効果については単価や収量が上がったという記載はあるが、荒川中部地区資料の 61 ページのような年効果額等の資料は掲載されていないように見受けられる。そういった資料を入れたほうが分かりやすいと思った。レタスが増えて作物生産効果に対しての影響が大きいということであれば、もう少し裏作対応に力を入れることを考えたほうがいいのではないかというようなコメントにもなろうかと思います。実際に井戸を掘っているという話もありましたが、水田で灌漑をやっているから、地下水涵養がなされて井戸が浅くなるから安い電気代で灌漑できるようになり、その効果もあると思われる。

事務局) 効果算定の資料はございます。事後評価の資料としてはここまでということで準備していましたが、もう一度要領等を確認して対応していきたいと思います。

石井委員長) この他はよろしいでしょうか。先程と同じように時間も限られておりますので、お気づきの点がございましたら、追加の質問等を含めて、7 月 3 日までに事務局の方へご連絡していただくということでよろしくお願いします。
では事務局の方に進行をお返しします。

事務局) 石井委員長におかれてはご進行どうもありがとうございました。また委員の皆様をはじめ、ご参席の皆様、大変お疲れ様でした。

ただいまご審議いただきました内容については、ご意見等を踏まえ 7 月 25 日に予定しております第 3 回の技術検討会におきまして、皆様に技術検討会の意見として取りまとめをお願いしたいと考えております。これに先立ちましては、石井委員長と調整させていただきながら委員長案というものを作成いたしまして、技術検討会でご提示したいと考えておりますがいかがでしょうか。

技術検討会委員) (異議なし)

事務局) ありがとうございます。それではお忙しい中、第 2 回の技術検討会にご出席いただきましてありがとうございました。

これにて閉会とさせていただきます。ありがとうございました。